

簿記3級仕訳問題 第2回

問. 次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	売掛金	当座預金	受取手形	仮払金
商品券	前払金	未収金	現金過不足	備品
支払手形	買掛金	仮受金	未払金	貸倒引当金
当座借越	他店商品券	前受金	売上	償却済債権取立益
雑益	仕入	旅費交通費	支払保険料	貸倒損失

1. 岩手商店から商品¥400,000 を仕入れ、代金のうち¥250,000 については岩手商店振出、和歌山商店あての為替手形を呈示されたので引き受け、残額については岩手商店発行の約束手形¥150,000 を裏書譲渡した。なお、引取運賃¥3,000 は現金で支払った。
2. 商品¥30,000 を売り上げ、代金は当店発行の¥50,000 の商品券で受け取り、つり銭を現金で¥20,000 渡した。
3. 本日当座預金に¥80,000 の入金があり、そのうち¥60,000 は岐阜商店から注文を受けた際の手付金であることが判明したが、残額の内容は不明であり、現在取引銀行に問い合わせ中である。
4. 当期首に売り上げた売掛金¥100,000 が期中で回収不能となり、全額貸倒れとして処理した。なお期首における貸倒引当金の残高は¥55,000 であった。
5. 1台あたり¥20,000 の事務用のデスクを6台購入し、代金のうち¥60,000 を現金で支払い残額は来月支払うことにした。なお、引取運賃¥4,000 は現金で支払った。

簿記 3 級仕訳問題 第 2 回 答案用紙

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

簿記3級仕訳問題 第2回 解答・解説

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕 入	403,000	支 払 手 形	250,000
			受 取 手 形	150,000
			現 金	3,000
2	商 品 券	50,000	売 上	30,000
			現 金	20,000
3	当 座 預 金	80,000	前 受 金	60,000
			仮 受 金	20,000
4	貸 倒 損 失	100,000	売 掛 金	100,000
5	備 品	124,000	現 金	64,000
			未 払 金	60,000

1. 為替手形の処理は要注意。為替手形は引き受けた者が支払義務が生じる。
また、約束手形の裏書譲渡は発行人に関わらず受取手形の減少を意味する。
2. 当店発行の商品券なので、商品券勘定で処理する。
3. 売上注文の手付金は前受金勘定を使用する。不明分の入金については仮受金勘定を使用して、内容が判明した時点で本来処理すべき勘定に振り替える。
4. 貸倒引当金は前期末の債権残高に対して回収不能額を見積もった金額なので、当期に売り上げた債権の回収不能については、その貸倒引当金の相殺はされない。つまり、当期の費用として貸倒損失勘定で全て処理するのである。
5. 販売用の商品ではなく事務用備品なので、掛代金は未払金勘定を使用すること。